

# JBT ポリウレア

## 製品安全データシート

### 第 1 節 物質・混合物の識別及び会社・事業の特定

#### 1.1 製品識別子

製品名:ポリウレア A  
同義語:スプレーポリウレア A

#### 1.2 物質または混合物の関連する特定された用途と用途

関連する特定された用途:	科学研究および工業生産目的のみであり、医薬品、食品加工、またはその他の目的ではありません。
--------------	---

#### 1.3 安全データシートのサプライヤーの詳細

登録会社名:	Yonekawa material co.,ltd
住所:	3372 hakoda kasama Ibaraki Japan 〒309-1631
電話番号:	81-0296-72-1414
ウェブサイト:	<a href="https://yonekawa-material.com/">https://yonekawa-material.com/</a>
Eメール:	info@yonekawa-material.com
ファックス:	81-0296-72-3673

#### 1.4 緊急電話番号

緊急通報(緊急センター):	81-0296-72-1414
---------------	-----------------

### 第 2 節 危険有害性の特定

#### 2.1 物質または混合物の分類

緊急事態における危険の概要: 液体。 吸入すると有害。 目を刺激する。 呼吸器系を刺激する。 皮膚を刺激する。 吸入による感作のおそれ。 皮膚接触により感作のおそれ。 不可逆的な影響が発生するリスク。
--

## 分類

急性毒性(吸入)区分 4、皮膚腐食性・刺激性区分 2、重篤な眼の損傷・眼刺激性区分 2、呼吸器感作性物質区分 1、皮膚感作性区分 1、発がん性区分 2、特定標的臓器毒性(単回暴露区分 3(気道刺激性)、特定標的臓器毒性(反復暴露区分 2))。

## 2.2 ラベル要素

ハザードピクトグラム:



注意喚起語: **危険**

## 2.3 危険有害性情報

H319 重篤な眼刺激性。  
H334 吸入するとアレルギー、喘息症状、呼吸困難のおそれがある。  
H373: 長期にわたる、又は反復暴露により臓器に障害を及ぼすおそれ。  
H335 呼吸器刺激のおそれ。  
H315 皮膚の炎症を引き起こす。  
H317 アレルギー性皮膚反応のおそれ。  
H351 発がんの疑い。

## 2.4 注意書きの予防

P201 使用前に特別な指示書を入手してください。  
P260 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸い込まないこと。  
P261 ミスト/蒸気/スプレーを吸い込まないようにすること。  
P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
P280 保護手袋/防護服/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
P284 [換気が不十分な場合] 呼吸用保護具を着用すること。  
P202 すべての安全上の注意を読み、理解するまで取り扱わないでください。  
P264 取り扱い後は、身体の露出した部分を全てよく洗うこと。  
P272 汚染された作業服は、職場から持ち出すことを許されるべきではない。

## 2.5 注意書きの応答

P304+P340 吸入した場合:新鮮な空気に移し、呼吸しやすい状態を保つこと。  
P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。  
P321 特定の治療(このラベルに関するアドバイスを参照)。  
P342+P311 呼吸器症状がみられる場合:毒物センター/医師/医師/応急処置者に連絡すること。  
P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗い流すこと。コンタクトレンズがあつて簡単にできる場合は、取り外します。すすぎを続けます。  
P312 体調が悪くなったら、毒物センター/医師/医師/応急処置者に電話すること。  
P314 体調が悪くなった場合は、医師の診察を受けること。  
P333+P313 皮膚刺激又は発疹が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。  
P337+P313 眼の刺激が持続する場合:医師の診断/手当てを受けること。  
P302+P352 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。  
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。  
P362+P364 汚染された衣類を脱いで洗濯してから再利用すること

## 2.6 保管に関する注意事項

P405 店が施錠されている。  
P403+P233 風通しの良い場所に保管すること。容器をしっかりと閉めてください

## 2.7 使用上の注意 廃棄

P501 内容物/容器は、地域の規制に従って廃棄すること。

## 2.8 物理的および化学的危険

液体。  
水と混合できません。  
水に沈めます。

## 2.9 健康被害

### 1) 吸入

この物質は、一部の個人に呼吸器刺激を引き起こし、肺にさらなる損傷を与える可能性があります。この物質は、EU 指令またはその他の分類システムによって「吸入による危険」として分類されていません。これは、動物や人間の証拠を裏付ける証拠が不足しているためです。エビデンスが不足しているにもかかわらず、曝露を最小限に抑えるために適切な管理を実施する必要があります。職場での蒸気、煙、エアロゾルを制御するために適切な対策を講じる必要があります。吸入の危険性は、高温で増加します。

### 2) 摂取

この物質は、EC 指令またはその他の分類システムによって「摂取による有害性」として分類されていません。これは、動物や人間の証拠を裏付ける証拠が不足しているためです。材料は、特に既存の臓器(肝臓、腎臓など)の損傷が明らかな場合、摂取後も個人の健康に害を及ぼす可能性があります。有害物質または有毒物質の現在の定義は、一般に、罹患率(病気、不健康)を生み出す用量ではなく、死亡率を生み出す用量に基づいています。胃腸管の不快感は、吐き気や嘔吐を引き起こす可能性があります。しかし、職業環境では、少量の摂取は心配の原因ではないと考えられています。

### 3) スキンコンタクト

この物質との皮膚接触は、一部の個人に炎症を引き起こす可能性があります。この材料は、既存の皮膚炎の状態を強調する可能性があります。皮膚接触は健康に有害な影響を与えるとは考えられていません(EC 指令に分類されます)。材料は、傷、病変、または擦り傷から侵入した後、健康被害を引き起こす可能性があります。開いた切り傷、擦り傷、または炎症を起こした皮膚は、この素材にさらさないでください。切り傷、擦り傷、穿刺創、病変などから血流に入ると、有害な影響を伴う全身損傷を引き起こす可能性があります。材料を使用する前に皮膚を調べ、外部からの損傷が適切に保護されていることを確認してください。

### 4) 目

この材料は、目の炎症を引き起こしたり、一部の個人に眼病変を引き起こしたりする可能性があります。

### 5) 慢性疾患を有する症例

反復的または長期的な職業曝露は、臓器または生化学的システムを含む累積的な健康影響を引き起こす可能性があります。呼吸器刺激物に長期間さらされると、呼吸困難や関連する全身の問題を伴う気道の病気を引き起こす可能性があります。主に動物実験に基づいて、この物質が発がん性または変異原性の影響を引き起こす可能性があるという懸念が表明されています。しかし、入手可能な情報に関しては、満足のいく評価を行うためのデータが不十分であるのが現状です。実際の証拠は、物質の吸入がかなりの数の個人により高い頻度で感作反応を誘発する可能性があることを示しています。肺感作は、気道機能亢進や肺アレルギーを引き起こし、疲労、倦怠感、痛みを伴うことがあります。曝露の重大な症状は、曝露が止まった後も長期間持続することがあります。症状は、自動車の排気ガス、香水、受動喫煙など、さまざまな非特異的な環境刺激によって活性化される可能性があります。特定のグループの人々は、曝露後にアレルギー反応を発症する可能性が高くなります。喘息やその他の呼吸器系の問題の病歴がある人、または感作していることがわかっている人は、資料の取り扱いを伴う作業に従事しないでください。

## 2.10 環境ハザード

セクション 12 を参照してください。

# 第 3 節 成分の構成・情報

物質

CAS いえ	%[重量]	名前
26447-40-5	45-55	イソシアネートモノマー
9048-57-1	55-45	イソシアネートプレポリマー

## 第 4 節 応急処置

### 4.1 応急処置の説明

#### 1) アイコンタクト

本製品が目に入った場合:

すぐに新鮮な流水で洗い流してください。

まぶたを目から離して遠ざけ、時々上下のまぶたを持ち上げてまぶたを動かすことで、目の完全な洗浄を確実にします。

遅滞なく医師の診察を受けてください。痛みが続くか再発する場合は、医師の診察を受けてください。

目の怪我後のコンタクトレンズの取り外しは、特別な訓練を受けた担当者のみが行う必要があります。

#### 2) 皮膚接触

皮膚に接触した場合:

履物を含む汚染された衣服を直ちにすべて脱いでください。

皮膚と髪を流水(および可能であれば石鹼)で洗い流します。

刺激が発生した場合は医師の診察を受けてください。

#### 3) 吸入

煙や燃焼生成物を吸い込んだ場合は、汚染された場所から取り除いてください。

患者を横にします。暖かく休んでください。

気道を塞ぐ可能性のある入れ歯などの補綴物は、応急処置を開始する前に、可能であれば取り外す必要があります。

呼吸をしていない場合は、できればデマンドバルブ蘇生器、バッグバルブマスク装置、またはポケットマスクを使用して、訓練された人工呼吸を適用します。必要に応じて心肺蘇生法を行います。

遅滞なく病院または医師に搬送します。

#### 4) 摂取

すぐにコップ一杯の水を与えてください。

通常、応急処置は必要ありません。疑わしい場合は、毒物情報センターまたは医師に連絡してください。

### 4.2 救助隊へのアドバイス

対症療法。

## 第 5 節 消防措置

### 5.1 消火媒体

水の量のみを氾濫させます。

泡。

乾燥化学粉末。

二酸化炭素。

水しぶきまたは霧 - 大規模な火災のみ。

### 5.2 基材または混合物から生じる特別な危険

火災の非互換性:利用不可

### 5.3 消火活動の予防措置と保護対策

#### 1) 消火活動

消防隊に通報し、危険の場所と性質を伝えます。

呼吸器付きの全身防護服を着用してください。

排水管や水路へのこぼれをあらゆる手段で防いでください。

細かいスプレーとして供給される水を使用して、火災を制御し、隣接する領域を冷却します。

液体プールに水を噴霧しないでください。

周辺環境に適した消火対策を講じてください。

高温が疑われる容器に近づかないでください。  
保護された場所からの水しぶきで火にさらされた容器を冷やします。  
安全な場合は、コンテナを火の通り道から取り外します

## 2) 火災/爆発の危険

大きな火災の危険はありませんが、コンテナが燃える可能性があります。  
有毒ガスを発生することがある。  
腐食性の煙を放出する可能性があります。

# 第 6 節 偶発的放出措置

## 6.1 個人的な注意事項、保護具、および緊急時の手順

セクション 8 を参照してください

## 6.2 二次汚染防止対策

上記のセクションを参照してください

## 6.3 環境上の注意事項

セクション 12 を参照してください

## 6.4 封じ込めと浄化のための方法と材料

### 1) 軽微な流出

こぼれたものをすべて取り除きます。  
こぼれたものはすべてすぐに片付けてください。  
蒸気を吸い込んだり、皮膚や目に触れたりしないでください。  
保護具を使用して、物質との個人的な接触を制御します。  
こぼれたものを砂、土、不活性物質、またはバーミキュライトで封じ込めて吸収します。  
拭き取ります。  
廃棄物処理に適したラベル付きの容器に入れます。

### 2) 主な流出

人員のエリアを空け、風上に移動します。  
消防隊に通報し、危険の場所と性質を伝えます。  
呼吸器と保護手袋を着用してください。  
排水管や水路へのこぼれをあらゆる手段で防いでください。  
喫煙、裸光、発火源はありません。  
換気を増やします。  
安全な場合は漏れを止めてください。  
砂、土、またはバーミキュライトでこぼれたものを封じ込めます。  
回収可能な製品をラベル付きの容器に集めてリサイクルします。  
残りの製品を砂、土、またはバーミキュライトで吸収します。  
固形残留物を収集し、廃棄のためにラベル付きのドラム缶に密封します。  
場所を洗い、排水管への流出を防ぎます。  
排水管や水路の汚染が発生した場合は、緊急サービスに連絡してください。  
個人用保護具に関するアドバイスは、MSDS のセクション 8 に含まれています。

# 第 7 節 取り扱いと保管

## 7.1 安全な取り扱いのための注意事項

### 1) 安全な取り扱い

吸入を含むすべての個人的な接触を避けてください。  
曝露の危険性が発生した場合は、防護服を着用してください。  
換気の良い場所で使用してください。  
くぼみやサンプへの集中を防ぎます。

雰囲気チェックされるまで、密閉されたスペースに入らないでください。

喫煙、裸光、発火源は避けてください。

互換性のない材料との接触を避けてください。

**取り扱いの際は、飲食や喫煙はしないでください。**

使用しないときは、容器をしっかりと密封してください。

容器への物理的な損傷を避けてください。

取り扱い後は、必ず石鹼と水で手を洗ってください。

作業服は別々に洗濯してください。

適切な職業的作業慣行を使用します。

この MSDS に記載されているメーカーの保管および取り扱いに関する推奨事項を遵守してください。

安全な作業条件を確保するために、確立された曝露基準に照らして雰囲気を定期的にチェックする必要があります。

素材で濡れた衣服を肌に接触させないでください。

## 2)その他

不活性ガス(窒素など)下での保管を検討してください。

元の容器に保管してください。

容器をしっかりと密封してください。

喫煙、裸光、発火源はありません。

涼しく、乾燥した、換気の良い場所に保管してください。

互換性のない材料や食品容器から離して保管してください。

容器を物理的な損傷から保護し、漏れがないか定期的にチェックしてください。

含まれているメーカーの保管と取り扱いの推奨事項を遵守してください。

## 7.2 非互換性を含む安全な保管の条件

### 1)適した容器

金属缶またはドラム缶。

メーカーが推奨するパッケージ。

すべての容器に明確なラベルが貼られ、漏れがないことを確認してください。

### 2)ストレージの非互換性

ご利用いただけません。

## 第 8 節 曝露管理/個人防護

### 8.1 制御パラメータ

#### 職業ばく露限界(OEL)

ご利用いただけません

#### 材料データ

感覚刺激物は、目、鼻、喉に一時的で望ましくない副作用を引き起こす化学物質です。歴史的に、これらの刺激物の職業曝露基準は、

さまざまな空気中濃度に対する労働者の反応の観察。今日の期待では、ほぼすべての個人がわずかな感覚刺激から保護され、

曝露基準は、5~10 以上の不確かさの要因または安全率を使用して確立されます。場合によっては、動物の観察不能影響レベル(NOEL)を使用して、人間の結果が利用できないこれらの限界を決定します。TLV 委員会(米国)がこの化学物質群の呼吸基準を決定する際に通常使用する追加のアプローチは、急速に作用する刺激物に上限値(TLV C)を割り当て、刺激、生物蓄積、およびその他のエンドポイントからの証拠の重みが組み合わさってそのような制限を正当化する場合に短期曝露限界(TLV STEL)を割り当てることです。対照的に、MAK 委員会(ドイツ)は、強烈な臭気、局所刺激、および排泄半減期に基づく 5 つのカテゴリーシステムを使用しています。ただし、このシステムは、欧州連合(EU)の職業曝露限界科学委員会(SCOEL)と一致するように置き換えられています。これは米国のそれとより密接に同盟している。

OSHA(米国)は、感覚刺激物への曝露は次の可能性があるとして結論付けました。

炎症を引き起こす

他の刺激物や感染性病原体に対する感受性を高める

永久的な傷害または機能障害につながる

有害物質の吸収を促進し、労働者をこれらの物質の刺激性警告特性に順応させるため、過剰暴露のリスクが高まります。

## 8.2 露出制御

### 1)適切な工学的管理

工学的管理は、危険を除去したり、作業者と危険の間に障壁を設置したりするために使用されます。適切に設計されたエンジニアリング制御は、作業者の保護に非常に効果的であり、通常、この高レベルの保護を提供するために、作業者の相互作用とは無関係です。

工学制御の基本的なタイプは次のとおりです。

リスクを軽減するために、ジョブ、アクティビティ、またはプロセスの実行方法を変更することを含むプロセス制御。

選択した危険を労働者から「物理的に」遠ざける排出源の囲い込みおよび/または隔離、および作業環境内の空気を戦略的に「新鮮な空気を追加する」、「汚れた空気を取り除く」換気。換気は、適切に設計されていれば、空気汚染物質を除去または希釈できます。換気システムの設計は、使用する特定のプロセスと化学物質または汚染物質と一致する必要があります。

雇用主は、従業員の過剰露出を防ぐために、複数の種類の管理を使用する必要がある場合があります。

一般的に、換気が必要です。過度の露出のリスクがある場合は、適切なマスクを着用してください。マスクは、適切な保護を提供するために適切なサイズでなければなりません。例外的な状況では、付属の空気呼吸器が必要になる場合があります。

場合によっては、適切な自給式呼吸装置(SCBA)が必要になることがあります。倉庫や密閉された保管場所に十分な換気を行ってください。職場で発生する空気汚染物質は、さまざまな「脱出」速度を持ち、汚染物質を効果的に除去するために必要な新鮮な循環空気の「捕捉速度」を決定します。

### 2)個人保護



### 3)目と顔の保護

サイドシールド付き安全メガネ。  
ケミカルゴーグル。

コンタクトレンズは特別な危険をもたらす可能性があります。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収して濃縮する可能性があります。レンズの装用や使用制限を記載した方針書を、職場や作業ごとに作成する必要があります。これには、使用中の化学物質のクラスに対するレンズの吸収と吸着のレビューと、怪我の経験の説明を含める必要があります。医療従事者や応急処置要員は、その除去について訓練を受け、適切な機器をすぐに利用できるようにする必要があります。化学物質に曝露した場合は、すぐに目の洗浄を開始し、できるだけ早くコンタクトレンズを取り外してください。レンズは、目の充血や刺激の最初の兆候が見られたら取り外す必要があります-レンズは、労働者が手をよく洗った後にのみ、清潔な環境で取り外す必要があります。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59]、[AS/NZS 1336 または各国の同等物]

### 4)皮膚の保護

以下の「手の保護具」を参照してください

### 5)手/足の保護

化学防護手袋(PVC手袋など)を着用してください。  
安全靴または安全靴(ゴム素材など)を着用してください。

手記:

この材料は、素因のある個人に皮膚感作を引き起こす可能性があります。手袋やその他の保護具を取り外すときは、次の点に注意する必要があります。

皮膚への接触は避けてください。

靴、ベルト、時計バンドなどの汚染された革製品は取り除いて破壊する必要があります。

汚染された衣類は速やかに脱ぎ捨て、除染されるまで再利用しないでください。

### 6)ボディ保護

以下の「その他の保護」を参照してください

- 7)その他の保護  
 オーバー オール。  
 P.V.C.エプロン。  
 バリアクリーム。  
 スキンクレンジングクリーム。  
 洗眼ユニット。

## 第 9 節 物理的及び化学的性質

### 9.1 基本的な物理的および化学的性質に関する情報

外観淡色:無色から淡黄色			
物理状態	液体	相対密度(水 = 1)	1.14
匂	ご利用いただけません	分配係数 n-オクタノール/水	ご利用いただけません
臭気閾値	ご利用いただけません	自然発火温度(°C)	ご利用いただけません
pH(供給時)	ご利用いただけません	分解温度	ご利用いただけません
融点/凝固点(°C)	ご利用いただけません	粘度(cSt)	680
初期沸点と沸点範囲(°C)	>300	分子量(g/mol)	ご利用いただけません
引火点(°C)	>110	味	ご利用いただけません
蒸発速度	ご利用いただけません	爆発性	ご利用いただけません
可燃性	ご利用いただけません	酸化特性	ご利用いただけません
爆発上限(%)	ご利用いただけません	表面張力 (dyn/cm または mN/m)	ご利用いただけません
爆発下限(%)	ご利用いただけません	揮発性成分 (%vol)	ご利用いただけません
蒸気圧(kPa)	<0.0000133	ガスグループ	ご利用いただけません
水への溶解度	反応	溶液としての pH(1%)	ご利用いただけません
蒸気密度 (空気 = 1)	ご利用いただけません	揮発性有機酸化炭素(VOC) g/L	ご利用いただけません

## 第 10 節 安定性と反応性

### 10.1 反応性

セクション 7 を参照してください

### 10.2 化学的安定性

互換性のない材料の存在下では不安定です。  
 製品は安定していると見なされます。  
 危険な重合は発生しません。



**10.3 危険な反応の可能性**

セクション 7 を参照してください

**10.4 避けるべき条件**

セクション 7 を参照してください

**10.5 互換性のない材料**

セクション 7 を参照してください

**10.6 有害分解生成物**

セクション 5 を参照してください

**第 11 節 毒物学的情報**

文献検索で有意な急性毒性データは同定されなかった。

IARC によりグループ 3 に分類されている:

ヒトに対する発がん性については分類できません。

動物実験では、発がん性の証拠が不十分または限定的である可能性があります。

急性毒性:√	発がん性:√
皮膚刺激/腐食:√	リプロダクション:×
重篤な眼の損傷/刺激:√	STOT - 単一ばく露:√
呼吸器または皮膚感作性:√	STOT - 反復ばく露:√
変異原性:×	誤嚥の危険:×
凡例: × データが利用できないか、分類の基準を満たしていません √ 分類に利用できるデータ	

**第 12 節 生態情報****生態毒性**

材料に関するデータはありません。

下水道や水路に排出しないでください。

植物の土壌や地下水に影響を与える可能性のある場所には廃棄しないでください。

**持続性と分解性**

すべての成分についてデータがありません

**生物蓄積性**

すべての成分についてデータがありません

**土壌中での移動性:**

すべての成分についてデータがありません

**第 13 節 廃棄に関する考慮事項****13.1 廃棄物の処理方法****1) 廃薬品**

容器は、空の場合でも化学的危険/危険をもたらす可能性があります。

廃棄物の発生は、可能な限り回避または最小限に抑える必要があります。

残留物が残らないように容器を十分に洗浄できない場合、または容器を使用して同じ製品を保管できない場合は、容器に穴を開けて再利用を防ぎ、許可された埋め立て地に埋めてください。

可能であれば、ラベルの警告と MSDS を保管し、製品に関するすべての通知を遵守してください。

廃棄物処理要件に対応する法律は、国、州、および/または地域によって異なる場合があります。各ユーザーは、その地域で運用されている法律を参照する必要があります。一部の地域では、特定の廃棄物を追跡する必要があります。

洗浄装置やプロセス機器からの洗浄水が排水管に入らないようにしてください。

廃棄する前に、処理のためにすべての洗浄水を集める必要がある場合があります。

いずれの場合も、下水道への廃棄は現地の法律および規制の対象となる場合があります、これらを最初

に考慮する必要があります。  
こぼれた材料をリサイクルしないでください。  
再利用を防ぐためのパンク容器。  
承認された場所で残留物を埋めるか、焼却します。

**2) 汚染されたパッキン**

材料:上記のセクションを参照してください

**3) 輸送上の注意:**

上記のセクションを参照してください

## 第 14 節 輸送情報

### 14.1 必要なラベル

海洋汚染物質: いろいろ  
陸上輸送(国連): 危険物の輸送は規制されていません  
航空輸送(ICAO): 危険物の輸送は規制されていません  
海上輸送(IMDG): 危険物の輸送は規制されていません  
MARPOL 条約附属書 II および IBC コードに従ったバルク輸送:該当なし  
輸送上の注意  
適切な容器:セクション 7 を参照

## 第 15 節 規制情報

### 15.1 物質または混合物に固有の安全、健康、環境規制/法律

中国既存化学物質インベントリー

### 15.2 国内在庫状況

国家インベントリ	地位
オーストラリア - AICS	はい
カナダ - DSL	はい
中国 - IECSC	はい
ニュージーランド - NZIoC	はい
フィリピン - PICCS	はい
韓国 - KECI	はい
米国 - TSCA	はい

## 第 16 節 その他の情報

### 16.1 情報の作成と修正

改定日:2022-10-18

初版作成日: 2013-6-5

製品安全データシート MSDS - GB/T 16483(2008)、GB/T 17519(2013)に準拠して作成。

### 16.2 その他の情報

製品安全データシート MSDS は、ハザード情報のコミュニケーションツールとして、リスク評価を支援するために使用する必要があります。

報告すべき危険が職場またはその他の配置での危険であるかどうかを判断するために、多くの要因を使用できます。

ハザードは、曝露条件を参照して決定できます。使用の規模、使用頻度、および既存または利用可能な工学的制御をすべて考慮する必要があります。

### 16.3 免責事項

この MSDS の情報は、特に指定のない限り、この製品と他の物質の混合物には適用されません。

この MSDS は、適切な専門トレーニングを受けたこの製品のユーザーのみに、製品の使用の安全性に関する情報を提供します。

商品名: Polyurea A

バージョン No:5.0

改訂日: 2022-10-18

最初の日付:2013-6-5

本 MSDS の利用者は、本 MSDS の適用性について、自ら判断しなければなりません。  
この MSDS の著者は、この MSDS の使用によって引き起こされたいかなる傷害についても責任を負いません。  
すべての化学物質は未知の危険をもたらす可能性があるため、注意して使用する必要があります。